

## 相互理解への手がかりから実践へつなげる「u&amp;i」の活用

千葉市立小谷小学校 教諭 横山 亮一

## 小学校6年生 道徳 u&amp;i

【番組紹介・活用回】第1回「授業に集中したいのに」今回は発達障害の感覚過敏を取り上げる。互いに話すことで相手のことを知り、気づき合う大切さや、みんなが気持ちよく過ごせるにはどうしたらよいか、考える。

## 【授業デザイン】道徳（相互理解、寛容）

主題名 みんなちがってみんないい

ねらい 相手を理解することのよさを考えることを通して相手に対して謙虚な心や広い心で受け止め適切に対処しようとする道徳的实践意欲と態度を養う。

<導入 5分>

○相手を理解するってどういうことでしょうか。

○相手を理解しようと思って その通りにできたり、うまくいかなかったりしたことはありますか。

○今日は相手を理解することのよさについてもう少し考えてみよう。

<展開 25分>

## 番組視聴

○アイちゃんはどのような気持ちで「やめて」と言おうと思ったのでしょうか。

○このとき、アイちゃんはほかにどんなことができたのでしょうか。

○アイちゃんはどのようにココロの電話を使ってみようと思ったのでしょうか。

◎アイちゃんがユウ君に聞いてみようと思ったのはどのような気持ちからでしょうか。

○ユウ君はどのように思ったのでしょうか。

<終末 15分>

○今日の学習を通して、いろいろな友達と気持ちよく生活するためにはどのようなことを意識していけばよいと思いますか。

## 【授業の概要】

これまでの生活体験と番組視聴から、相手を理解するための手がかりや観点を知る。考えたことを共有しながら、相手に対して謙虚な心や広い心で受け止め、適切に対処しようとする道徳的实践意欲と態度を養った。

## 【今回の実践における番組効果】

- 1 未経験あるいは追体験の困難な事物や事象に対して、具体的な理解の手がかりを与える。
- 3 事象の関係、構造、過程などを要約した形で示し、事象の全体的な理解を容易にする。
- 12 よりよいコミュニケーションのあり方を示し、学習者の対話による学びを促進する。

## 【授業デザインの工夫】

## ○教室内の視聴環境を整える

全員の児童がテレビを見やすい環境になっているように事前に教室のテレビ配置や座席などの環境を整えておく。



## ○番組webサイトの活用

番組サイト内にあるイラストや場面絵をダウンロードして、場面の想起や発問の際に掲示していく。



## ○個で考える時間を保障し対話へとつなげる

終末ではワークシートに個人の考えを書いてからグループで考えを交流する。グループにすることですべての児童が考えを伝えることができる場を設けることができる。



## 【成果と課題】

ワークシートの記述では、「ユウ君が光で眩しくならないようにするために、いろいろな方法があること、みんなで考えればきっと見つかる」「もしかしたら、手助けは迷惑なのかもしれない。でも一緒に考えていくことはできると思う」など番組視聴が理解の手掛かりとなり、理解の観点を児童に与えていたことが見受けられた。終末の話し合い後には、「相手のことをすべて理解することはできないが、できるだけ近づけられるようにするために、本人に直接聞いてみたり、行動を共にしたりする。相手に対して間違った考えや思い込みをしないようにしたい」「相手のことを考えて生活できるようにしたい」と他者を理解するための実践につなげていこうという姿も見られた。展開の部分コンパクトにまとめ、終末の活動時間確保につなげていきたい。